

プログラム日記

1日目 8月18日(金) 天気: 晴れ

プログラム	活動内容および参加者の状況
<p>集合・受付 「開塾式」 進行: 佐々木 治</p> <p>「アイスブレイク」 進行: 佐藤 彰吾</p> <p>プログラム① 「火と人との関わり」 講師: 佐々木 治</p>	<p>開塾式では、主催者を代表して実行委員長の漆原常務理事、檜崎実施本部長があいさつをしました。開塾式後は、安心して活動を行えるようにアイスブレイクをしました。</p>  <p>「火と人との関わり」では、火の特色、火を使う動物、人類が火を使うようになった経緯などについて、クイズ形式で確認しました。ワークブックを使用しながら、火と人との関わりについて理解を深めました。</p> 
<p>プログラム② 「燃焼の秘密を知ろう」 講師: 佐々木 治</p>	<p>「燃焼の秘密を知ろう」では、「比べて違いを見つけよう」をキーワードに、対照実験から燃焼するための条件を考察するという、グループ学習を行いました。子どもたちは仮説を立て、実験により検証を行いました。学年に関係なくそれぞれが意見を出し合うことができ、班のメンバーで考察を行いました。</p> 
<p>夕食</p> <p>プログラム③ 「仲間作りゲーム と花火大会」 講師: 佐藤 彰吾</p>	<p>「仲間作りゲーム」では、人類が「火」と同時期に使用するようになった「言葉」を使い、円になって踊ったり、協力してゴールを目指すゲームをしました。「花火大会」では、手持ち花火約 500 本、噴水式の花火を約 30 個用意しましたが、30 分ほどで無くなりました。光や音がほとんどない場所での花火は、とても美しく、花火の音や色の変化を楽しむことができました。</p>  
<p>入浴・就寝</p>	

プログラム	活動内容および参加者の状況
<p>朝の集い</p> <p>プログラム④ 「火おこし」 講師：平山 雅玖</p>	<p>火おこしでは、摩擦式、火花式、光学式の3つの発火法に挑戦しました。子どもたちは自分がやってみたい発火法に挑戦し、次々と火をつけました。</p> 
<p>プログラム⑤ 「野外炊飯」 講師：武田 一郎</p>	<p>野外炊飯では、竈で火をおこし素麺を茹でて食べました。子どもたちは竈で薪の置き方を変えてみたり、小さな木っ端を集めて入れてみたり工夫しながら火をおこしました。</p> 
<p>プログラム⑥ 「サイエンスショー」 講師：広島ガス(株)職員</p> <p>フリータイム 「ブルーベリー収穫体験」 案内：佐藤 彰吾</p>	<p>サイエンスショーでは、炎色反応や液体窒素を利用した実験や化石燃料のでき方などのクイズをしました。</p> 
<p>プログラム⑦ 「キャンプファイアー」 講師：武田 一郎</p>	<p>こども村農園でできた完熟ブルーベリーを20分食べ放題で楽しみました。いくつもの木のブルーベリーを友達と一緒に食べ比べました。</p>  <p>キャンプファイアーでは、親分(講師)の呪文で山の神を降霊させ火を起こしたり、火を囲んで踊ったり歌ったりして楽しみました。その場にいたものにしか感じられない「火の輝き、星空の壮大さ、森の静けさ」がありました。アンケートを見ると3日間の中で一番思い出に残るプログラムだったようです。</p> 
<p>入浴・就寝</p>	

プログラム	活動内容および参加者の状況
<p>朝のつどい</p> <p>プログラム⑩ 「火を活用しよう」 講師：佐々木 治</p>	<p>「火を活用しよう」では、べっこう飴とポンポン船を作りました。熱エネルギーを運動エネルギーに変える「熱機関」の原理を利用した「ポンポン船」作りでは、水蒸気の圧力で推進力を得て、船が進むことに子どもたちは驚いていました。</p> 
<p>「おわりのつどい・閉塾式」</p> <p>進行：佐々木 治</p>	<p>「おわりのつどい」では、2泊3日を振り返るムービーを觀賞し、子どもたち一人一人が思い出に残ったことについて発表を行いました。また、ボランティアスタッフも子どもたちに向けてメッセージを伝えました。最後に、子どもたちは、檜崎実施本部長より修了証と記念バッジを受け取り、終了となりました。</p> 

プログラム以外の子どもたちの様子 8月18日(金)～8月20日(日)まで

日時	活動内容および参加者の状況
8月18日(金)	 <p data-bbox="405 1093 1508 1160">1日目は、休憩時間の遊びや食事などを通じて班のメンバーやボランティアスタッフのお兄さん・お姉さんと次第に打ち解けていきました。</p>
8月19日(土)	 <p data-bbox="405 1980 1508 2076">2日目は、入浴や就寝を共にした宿泊部屋の友達や他の班のメンバーとの交流が見られるようになりました。また、みんなのために率先してお手伝いをしてくれる子どもが出てきました。</p>

8月20日(日)



3日目は、だんだんと集団の中で自分を表現したり、班のメンバーやボランティアスタッフや施設職員と気軽に会話ができるようになりました。「感動塾・みちくさ」終了後の子どもたちのアンケートを見ると、就寝や入浴、友達やお兄さん・お姉さんと話をしたことについての記述が多く見られました。